

緑化通信 2026 2月25日 (年6回25日発行) 第515号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階 TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577 URL: https://www.uekior.jp/ E-mail: honbu@uekior.jp 購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円



環境に配慮するため FSC®森林認証紙を使用しています。

令和8年度

(一社)日本植木協会通常総会

令和8年1月28日(水)、東京都都庁 都ホテル京都市 会に先立ち、総会の運営の八条にて、(一社)日本植木協会は、令和8年度通常(第2回)理事会を開催した。

佐久定規会長挨拶



新年あけましておめでとうございます。日頃より、当協会の運営に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。また、今回の総会開催に向けて多大なるご尽力をいただきました関西ブロック会員の皆様、改めて深く感謝申し上げます。

このような状況の中、緑化産業界にとって大きな希望となるのが、2027年3月に神奈川県横浜市で開催される「GREEN×EXPO 2027(2027年国際園芸博覧会)」です。本年10月からは造成工事に続き、本格的な植栽工事が開始される予定であり、国内外の多くの来場者の皆様に、未来の都市と緑の関わり方を提示できる、またとない機会になるものと期待しております。

通常総会の説明内容や議事進行の確認等を行い円滑な通常総会の運営を図ることとした。

【通常総会】開会に先立ち、事務局より定足数の確認が行われ、会員数377名のうち、出席127名、委任状出席132名の計259名で会



協会顧問の参議院議員 有村治子秘書 鶴田由紀子氏

環境省近畿地方環境事務所長 伊藤賢利氏

国土交通省近畿地方整備局建政部公園調整官 石川啓貴氏

農林水産省近畿農政局生産部長 野村電司氏

林野庁森林整備部整備課造林間伐対策室長 天田慎一氏

【議長団等選出】議長団は、議長に溝口勝夫氏(株松盛園/兵庫県)、副議長に杉田高歳氏(杉田園/大阪府)が選出され、

【審議事項、報告事項】①第1号議案 「令和7年度決算報告及び監査報告」 議長は、第1号議案「令和7年度決算報告及び監査報告」と、報告事項「令和7年度事業報告」は、関連していることから、併せて、事務局に説明を求めた。

事務局は、令和7年度事業報告について説明を行い、続いて、令和7年度決算報告及び監査報告について説明を行った。

【報告事項】①令和8年度事業計画及び収支予算 議長は、令和8年度事業計画及び収支予算について、事務局に説明を求めた。

【閉会宣言】事務局より、令和9年度通常総会開催地について、



亀岡市長 桂川孝裕氏

京都市長 松井孝治氏

京都府知事 西脇隆俊氏

一般社団法人 日本植木協会会長表彰等

従業員永年勤続表彰

- 辻 浩二氏 (株)中西園材
○岩崎博章氏 関電不動産開発(株) 開発マネジメント部 グリーンソリューショングループ
○丹野貴浩氏 (株)幽芳園
○石倉真司氏 (有)作樹園
○植野哲也氏 上田敷島園

役職功労表彰

- (理事退任)
○佐久定規氏 (有)千代田緑地
○辰巳広之氏 (株)植広園
○石井新次氏 石井農園
○栗原隆治氏 (有)栗原緑地

(監事退任)

- 小畑勝裕氏 (有)仲松園
○城処 章氏 (有)大門殖産園
○赤塚正基氏 赤塚花木園
○中西 誠氏 (株)中西園材
○内山 淳氏 (株)山都屋
○福島明裕氏 エンザイ緑販(有)
○田村政則氏 (有)田村山林緑化農園
○田中秀穂氏 (株)ガーデン二賀地
○佐野栄信氏 佐野園
○島山富夫氏 (株)島山種苗園
○村松達彦氏 ヤマキ種苗園
○櫻井 太氏 (有)櫻井エンタープライズ
○丹下貴啓氏 (株)瀬戸内園芸センター



議長の溝口勝夫さん、副議長の杉田高歳さん



上段席の理事



賛助会員の皆さん

令和9年1月に中部ブロックで開催すると報告され、中部ブロック長の鶴飼幸治氏から歓迎の挨拶があった。

○青年部会紹介 田宮慎二青年部会長の挨拶及び青年部の活動状況について報告された。

○賛助会員紹介 賛助会員の紹介及び賛助会員の紹介及び

新役員名簿(令和8~9年度)

役職名	氏名	社園名	都道府県
会長	生駒 順	生駒植木(株)	神奈川
副会長	黒田 晴彦	(有)美好緑化	愛知
	内山 淳	(株)山都屋	岡山
	西郷 純一	西郷農園	鹿児島
専務理事	太田 和也	(一社)日本植木協会	東京
理事	眞鍋 憲太郎	眞鍋庭園苗畑	北海道
	大久保 吉広	(有)猿島ガーデン	茨城
	浅見 和正	(株)浅見園芸	埼玉
	高橋 浩久	高橋園芸	東京
	橋本 幸夫	橋本園芸	愛知
	角田 肇康	(株)角田園	愛知
	小島 幹央	(株)京都芳樹園	京都
	丹下 貴啓	(株)瀬戸内園芸センター	愛媛
	古賀 尚樹	愛花夢(株)	福岡
	監事	内田 耕一郎	曼珠苑
佐久 定規		(有)千代田緑地	茨城



従業員永年勤続表彰
左から中西氏(代理)、岩崎氏、佐久会長、丹野氏、森氏(代理)

令和8年度 総会式典

令和8年度通常総会後の15時から令和8年度通常総会式典を開催した。生駒順副会長による開会の辞で開幕し、佐久定規会長が開会にあたっての挨拶を行った。

ご来賓から林野庁森林整備部整備課造林間伐対策室長の天田慎一様、農林水産省近畿農政局生産部長の野村竜司様、国土交通省近畿地方整備局建設部公園調整官の石川啓貴様、環境省近畿地方環境事務所長の伊藤賢利様よりご祝辞を頂いた。

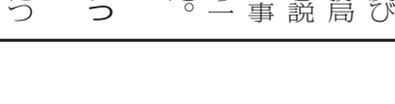
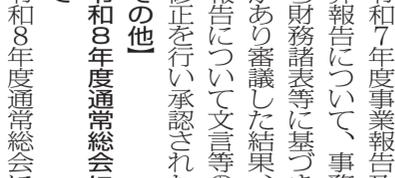
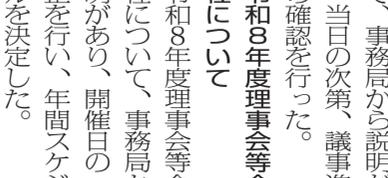
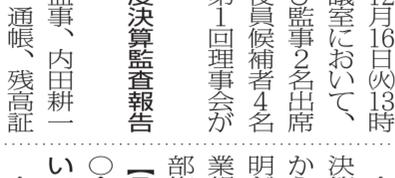
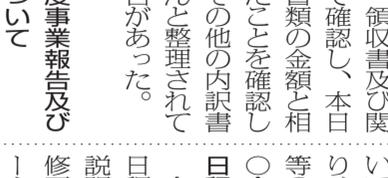
次に、協会会長表彰があり、役職功勞表彰、従業員永年勤続表彰、特別庭園樹(名木)認定証の授与を行い、各受賞者は佐久会長から表彰状が授与された。

続いて、協会要職を長年に亘り務め、緑化用樹の生産振興に貢献された石井副会長に「藍綬褒章」を授与された。

「藍綬褒章」を受章された石井副会長は、開会挨拶をする石井副会長



開会挨拶をする石井副会長



意見交換会

18時15分から意見交換会が開催され、新 生駒順会長が、新役員体制を紹介し、新体制としての意気込みを語った。

続いて、西脇隆俊京都府知事、松井孝治京都市長、桂川孝裕亀岡市長に挨拶を賜り、松居隆史関西プロック長に乾杯の挨拶を頂いた。

大阪支部の溝口勝夫氏が中締めをし、盛大な意見交換会となり、ご来賓の方々を含め169名が参加し、交流を深める貴重な機会となった。



「藍綬褒章」を受章された宍倉顧問



特別庭園樹木(名木) 佐久会長、今里氏(基平植木)



役職功勞表彰 左から佐久会長、辰巳氏、内山氏、田中氏(代理)



講師 建築家 安藤 忠雄氏 「環境の時代、緑を育てること」

安藤忠雄先生は講演の中で、「木は植えて終わりではなく、手をかけ、面倒を見て育てるものだ」と述べ、植木の仕事は「育て上げる力」だと語られ、植木屋には植物を育てる特別な才能があることも激励された。熱意と情熱、そして努力をあきらめず続ける姿勢が不可欠だと語られた。

また、直島や大阪・花之宮での四千本桜の植栽など、事例を挙げながら、明確なビジョンを持つことの大切さを説かれた。緑の大切さを説かれた。緑の大切さを説かれた。緑の大切さを説かれた。

最後に、佐久会長は「安藤先生に、植木屋はもっと稼いで、儲けながら、夢を持ち工夫をしながらもっと頑張れ!と言われた気がしました。ありがとうございます。」と謝辞を述べた。

令和7年度 第6回理事会を開催

令和7年11月21日(金)13時から協会会議室において、理事14名及び監事2名出席のもと第6回理事会が開催された。

【審議事項】
○令和8年度事業計画及び収支予算について
令和8年度事業計画及び収支予算について、事務局から説明があり審議した結果、事業計画の文言等の一部修正を行い承認された。

【協議事項】
○役員アンケートについて
役員(理事・監事)に配付したアンケート結果に基づき、業務執行理事会において今後の方向性を理事会に提案し、理事会で協議した。

令和8年度 第1回理事会を開催

令和7年12月16日(火)13時から協会会議室において、理事14名及び監事2名出席の外、次期役員候補者4名が出席し、第1回理事会が開催された。

○令和7年度決算監査報告について
小畑勝裕監事、内田耕一郎監事より、通帳、残高証明書、元帳、領収書及び関係書類を全て確認し、本日提出の決算書類の金額と相違が無かったことを確認した。元帳等その他の内訳書などがきちんと整理されていた旨の報告があった。

【審議事項】
○令和7年度事業報告及び決算報告について
令和7年度事業報告及び決算報告について、事務局から財務諸表等に基づき説明があり審議した結果、事業報告について文言等の一部修正を行い承認された。

【その他】
○令和8年度通常総会について
令和8年度通常総会について、事務局から説明があり、開催日の一部修正を行い、年間スケジュールを決定した。

百樹考

川原田 邦彦
 確実園芸芸場(茨城県)

日本では普通に使われる漢字。何々偏を集めると面白いですね。寿司屋に行くと、湯飲みに魚偏の漢字が並んでいるのは、多くの人が目にする1種です。我々植木を扱うものとして、木偏と草冠りがあるのですが、まとまったものを見る機会はそれほど多くないでしょう。今回は、木偏の漢字を百集めたもので、故川原田林が1980年代に考案したものです。

棟	あうち=センダン	センダン科センダン属
梧	あおぎり	アオギリ科アオギリ属
榕	あこう	クワ科イチジク属
梓	あずさ=ミズメ	カバノキ科カバノキ属
授	あせび	ツツジ科アセビ属
桐	あらかし	ブナ科コナラ属
杏	あんず	バラ科スモモ属
椅	いいぎり	イイギリ科イイギリ属
榲	いぬえんじゅ	マメ科イヌエンジュ属
梅	うめ	バラ科サクラ属
漆	うるし	ウルシ科ウルシ属
榎	えのき	ニレ科エノキ属
槐	えんじゅ	マメ科エンジュ属
楷	かい=ランシンボク	ウルシ科ランシンボク属
槭	かえで	ムクロジ科カエデ属
現在、広く流通している楓は、平安時代に間違いから入れ替わり、たぶん簡単な方になってしまったものと思われる。ただし、トウカエデは中国では、三角楓と表わされる。 ちなみに、椈(もみじ)は国字。		
柿	かき(カキノキ)	カキノキ科カキノキ属
榎	かし	ブナ科コナラ属
梔	かじ(カジノキ)	クワ科コウゾ属
榎	かしわ	ブナ科コナラ属
櫻	かなめ	バラ科カナメモチ属
榲	かば	カバノキ科カバノキ属
榎	かや	イチイ科カヤ属
枳	からたち	ミカン科カラタチ属
榎	かりん	バラ科カリン属
楸	きささげ	ノウゼンカズラ科キササゲ属
檉	ぎよりゅう	ギョリュウ科ギョリュウ属
桐	きり	ノウゼンカズラ科キリ属
枸	くこ	ナス科クコ属
けんぼなしとも呼ぶ。		
柞	クスドイゲ	イイギリ科クスドイゲ属
ははそ(こなら・くぬぎ)とも呼ぶ。		
楠	くすのき	クスノキ科クスノキ属
樟 この字を呼ぶこともある。		
榉	くちなし	アカネ科クちなし属
櫟	くぬぎ 櫟(国字)	ブナ科コナラ属
栗	くり	ブナ科クリ属
桑	くわ	クワ科クワ属

欒	けやき	ニレ科ケヤキ属
榎	けんぼなし	クロウメモドキ科ケンボナシ属
柑	こうじ	ミカン科ミカン属
楮	こうぞ	クワ科コウゾ属
杉	こうようざん	スギ科コウヨウザン属
中国での呼び方。		
柏	コノテガシワ	ヒノキ科コノテガシワ属
中国での呼び方。		
榊	さかき(国字)	ツバキ科サカキ属
櫻	さくら	バラ科サクラ属
榴	ざくろ	ザクロ科ザクロ属
榎	さわら	ヒノキ科ヒノキ属
楂	さんざし	バラ科サンザシ属
椎	しい	ブナ科シイノキ属
檜	しきみ	モクレン科シキミ属
榎	しゅろ	ヤシ科シュロ属
檉	しんじゅ=ニワウルシ	ニガキ科ニワウルシ属
椈	すぎ(国字)	スギ科スギ属
榎	ずみ=コリンゴ	バラ科リンゴ属
李	すもも	バラ科サクラ属
橙	だいだい	ミカン科ミカン属
橘	たちばな	ミカン科ミカン属
樟	たぶ(タブノキ)	クスノキ科タブノキ属
くすとも呼ぶ。		
榎	たらのき	ウコギ科タラノキ属
椿	ちゃんちん	ツバキ科ツバキ属
中国での呼び方。中国では、山茶花と書くのが、ツバキのこと。		
母	つが(国字)	マツ科ツガ属
柘	つげ	ツゲ科ツゲ属
橡	つるばみ(=トチまたはクスギの古名)	
枳	とち(トチノキ)(国字)	トチノキ科トチノキ属
椴	とどまつ	マツ科モミ属
椈	とねりこ	モクセイ科トネリコ属
榎	なぎ	マキ科マキ属
梨	なし	バラ科ナシ属
檜	なら	ブナ科コナラ属
榆	にれ	ニレ科ニレ属
椒	はじかみ(サンショウ)	ミカン科サンショウ属
榛	はしばみ(ハンノキ)	カバノキ科ハンノキ属

櫨	はぜ(ハゼノキ)	ウルシ科ウルシ属
枹	ははそ(コナラ)	ブナ科コナラ属
柎	ひいらぎ	モクセイ科モクセイ属
柎	ひさかき	ツバキ科サカキ属
檜	ひのき(桧は俗字)	ヒノキ科ヒノキ属
楓	ふう	マンサク科フウ属
現在、広く流通している楓は、平安時代に間違いから入れ替わり、たぶん簡単な方になってしまったものと思われる。ただし、トウカエデは中国では、三角楓と表わされる。		
榎	ぶな	ブナ科ブナ属
これもブナを表す。		
榎	へご	ヘゴ科ヘゴ属
樺	ほお(ホオノキ)	モクレン科モクレン属
榎	まき	マキ科マキ属
榎	まさき(国字)	ニシキギ科ニシキギ属
松	まつ	マツ科マツ属
檀	まゆみ	ニシキギ科ニシキギ属
榎	まるめろ	バラ科マルメロ属
椈	むく(ムクノキ)	ニレ科ムクノキ属
椈	むくげ	アオイ科フヨウ属
榎	むくろじ	ムクロジ科ムクロジ属
榎	むろ(ネズミサシ)	ヒノキ科ビャクシン属
ネズミサシ(ネズ、トショウは別名)。		
桂	もくせい	モクセイ科モクセイ属
中国での呼び方(中華料理での桂花酒は、モクセイの花のお酒)		
榎	もちのき	モチノキ科モチノキ属
ネズミモチを指すこともある。		
榎	もっこうばら	バラ科バラ属
榎	もみ	マツ科モミ属
桃	もも	バラ科サクラ属
椰	やし	ヤシ科
なぎを指すこともある。		
柳	やなぎ	ヤナギ科ヤナギ属
楊	やまならし	ヤナギ科ヤマナラシ属
やなぎを指すこともある。		
榎	やまぶき	バラ科ヤマブキ属
榎	やまもも	ヤマモモ科ヤマモモ属
柚	ゆず	ミカン科ミカン属
榎	りんぼく	バラ科サクラ属
棉	わた	アオイ科ワタ属

素描挿話。

～すてきな花達に魅せられて

③2 コブシ

小岩井農牧(岩手県)
 たる さわ だし
 足澤 匡

拳を上向きに開いたように見える・・・であれば、拳ではないですね。「半開きの手のひら」ですね。

さらに、「壬生義士伝(原作:浅田次郎)」では、「盛岡のこぶしは、北さ向いても咲ぐのす」と表現されています。前年の梅雨～夏に形成された花芽は、落葉後、枝先に残り、冬の厳しい寒さを耐え、早春、暖かい陽の光を浴び咲くのです。花芽の南側が暖められるので、おのずと蕾の先端は北側を向く、という訳なのです。

ところで、コブシの花弁は何枚だと思いませんか? 正解は花被片が9枚です。ユリの仲間なども花弁ではなく花被片と言います。萼との区別がつかないことが理由だそうですが・・・。花弁のように見える内花被片が6枚、外側にある半透明で目立たない外花被片が3枚あります。合わせて9枚。コブシに限らずモクレン科の植物は、被子植物の中でも特に原始的な特徴を持っています。面白いですね。いろいろと書きましたが、植物に対する興味は尽きませんね。だから、楽しいです。

あ、そういえば、「キタコブシ *M. k. var. borealis*」の話も書きたかったのですが、文章が長くなったので、今回は触れません。



Magnolia kobus Tatschi

未来の花と緑を担う若者たちへ
 岐阜県立国際園芸アカデミーで
 「造園植物業界の現状と
 未来について」講義

岐阜県立国際園芸アカデミーは、花き生産、花き装飾、造園緑化の担い手を育成する専修学校。去る11月27日、講師に(株)京都芳樹園代表取締役の小島幹央氏を迎え、マイスター科2年生を対象とした選択授業「植物ビジネス論」の中で、「造園植物と資材の販売」をテーマに講義とワークショップを行い、造園植物業界の現状と未来を考えた。

英国での経験

講義は小島氏の自己紹介から始まり、造園植物や資材販売を手掛ける京都芳樹園の事例をもとに、業界の実態が語られた。



ワークショップ



講師の小島幹央氏(株)京都芳樹園

造園植物業界は、成長の遅い樹木を扱うことから、長期的な視点で生産・販売に取り組む必要がある。今回の講義は自身の経験に基づき、造園植物について幅広く、かつ深い内容が盛り込まれていた。

学生の関心を集めたのは、氏が英国王立園芸協会(RHS)の世界遺産キューガーデンやハロウカー植物園でインターンを経験した話で、イギリス人だけ

でなく、ヨーロッパから来たインターン生との異文化交流の難しさや、日本と英国の庭園に対する考え方や植栽する際に使用するスコップなどの道具の違い、樹木の植栽方法の違いに戸惑いながらも、得た学びは大きかったという。また、休日にはオープンガーデンやカントリーサイド・ウォーキングを楽しみ、イギリス人のライフスタイルにも触れたことも紹介し、「若

いうちの国際経験は視野を広げると学生に熱く語った。

植木協会のPR活動の紹介

さらに、日本植木協会が2003年から実施している消費者向けのPR活動として「都市緑化の需要増進」(2007年国際園芸博覧会への期待)が語られた。提案には「SNS発信」「ポランテア活動」「花育」

「イベント開催」などが並び、「植木のテーマパークを作る」というユニークなアイデアも飛び出した。

学生が描く未来像

ワークショップでは3班に分かれ「造園植物業界の振興策」を議論。課題として「高齢化・人手不足」「気

学生に実施していたアンケートの内容

1. これまでの「植木生産卸問屋」のイメージは?
2. 今の「植木生産卸問屋」のイメージは?
3. 講師への質問
4. 造園植物業界の課題は?
5. 造園植物業界の可能性は?
6. 造園植物業界の振興策は?

連載「多肉・珍奇植物」

第16回 葉もの多肉らしい華やかさから
 渋い色彩形態まで多様で異色の存在、アエオニウム

東京都市大学環境学部教授 飯島 健太郎



◆プロフィール

東京都市大学環境学部教授。桐蔭横浜大学工学部専任講師、同医用工学部准教授を経て現職。博士(農学)。日本造園学会賞/研究論文部門受賞、東京農業大学造園大賞受賞。著書:『新しい都市緑化・ガーデニング材料/多肉植物』(ソフトサイエンス社)、『サボテン大好き』(講談社)、『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』(主婦と生活社)、『サボテン全書』(監修、グラフィック社)、『多肉植物全書』(監修、グラフィック社)など。

エケベリアやセダムとともに並べられて雑多なロゼット多肉の一つと認識されがちであるが、その色彩からフォルムまで多彩で味わい深いグループとして「アエオニウム」を紹介したい。本属はベンケイソウ科に属し、およそ40種が知られる。カナリア諸島に多く分布するほか、モロッコ、マデイラ諸島、東アフリカなど、それぞれに分布する種もある。

典型的な形態として、浅めのお碗状から平面状にロゼット葉を形成し、特異な色彩、株立のほか、種によっては季節的に劇的な変化を見せるものがあり、その生態も興味深い。かつては熱狂的なファンに愛好されるようなメジャーな存在ではなかったが、近年では品種も増えて徐々に注目されるようになってきた。普及種から比較的流通量の少ない種もあり、「アエオニウム」の検索傾向からは、ビザールプランツの人気とともにその関心は特にここ数年高まっていると言える(図)。

2~3寸程度の小鉢で栽培される種が多い中で、伸長分岐しながら大型に生育する種は、季節的に修景用に配植されたり、ドライガーデン風の外構植栽やコンテナプランツとして導入される場面もあり、種類は限られるものの多用途に可能性が広がっている(写真1、2、3)。

ところで、究極の色彩と言え、可視広域の全反射率が限りなく0に近い「黒色」であろうか。その黒色を呈する多肉植物の一つに「黒法師(Aeonium 'Zwartkop'/A. arboreum cv. 'Atropurpureum')」がある(写真4)。栽培環境により草丈は、十数cmから80cmに達し、伸長する茎の先に光沢のある黒紫のロゼットを形成する。枝を出して株立ちとなる姿も特徴的。モロッコ原産のアルボレウム(A. arboreum)種をもとに誕生した園芸品種であり、別名「サンシモ



写真1 露地に配植された黒法師



写真2 ドライガーデンに植栽された黒法師



写真3 コンテナ植栽された黒法師

ン」。さらに黒色の強い「真っ黒黒法師」なる品種も流通している。

七変化する色彩の代表的な品種は「夕映え(A. 'Kiwi')」であろう。季節や環境によって葉色が緑色、黄色、オレンジ色と変化し、特に寒くなると紅葉するなど魅力的な色彩を呈する(写真5、6)。草丈20cm~25cm程度の小型であり、葉に紅色の縁取りが入る緻密な芸は、普及品にもかわからず気品に満ちている。本種は、アエオニウム・デコラムの斑入りの園芸種(A. decorum f. variegata)という説もあるが、明らかではない。

アエオニウムには季節的に形態をダイナミックに変化させるものがある。ドドラントリス(A. dodrantalis)や緑玉盃(A. aizoon)などの種類は、ロゼットの葉を密に重ねつつ頭部に丸めて休眠期を過ごす。カナリア諸島原産。典型的な冬生育型多肉植物であり、これらはグリーンノビア(Greenovia)属からアエオニウム属に統合された。アエオニウム・パルマ(A. 'Palma')は、明緑色の丸葉が特徴的なロゼットからは想像できないほど、夏季の休眠期には極度に丸まって立体的な卵形を呈する(写真7、8)。成長期のロゼット以上に、休眠期の特異な形態を賞でる愛好者も少なくない。

アエオニウムは、多肉植物の専門農家によって、ミニ多肉(2寸鉢)の一つとして生産されてきたが、背の高い枝物は3寸から4寸程度に仕立てられ観葉植物業者によって生産され、断続的に流通が見られる。原種の希少種や高価格帯の新品種は多肉植物専門業者が少量取り扱っているものの、その流通は安定していない。

あらためて多用途の可能性を秘めた園芸から修景へのアエオニウムの利活用をはじめ、手のひらサイズで比較的成長が遅いながらもダイナミックに季節的形態変化を見せてくれるような生命感を賞でる世界も大切にしたい。



写真4 黒法師



写真5 夕映え(温暖期)



写真6 夕映え(冷涼期)

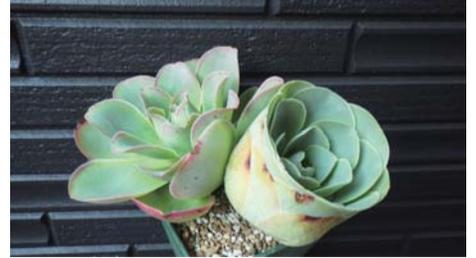


写真7 アエオニウム・パルマ(お碗状の展開と成長期のロゼット)



写真8 アエオニウム・パルマ(休眠形態)

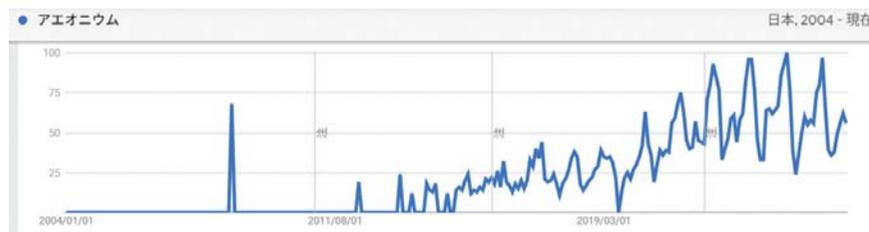


図 グーグルトレンド機能による「アエオニウム」の検索傾向

「オリーブ」

問い合わせ 梶村建太 (有)カジムラファーム ☎0943-75-2319

ホジブランコ (Hojiblanca)



原産国：スペイン
 用途：オイル、ピクルス
 葉の特徴：葉が長く、披針形。
 実の特徴：比較的大きく、卵型。左右対称的で丸みを帯びている。

コラティナ (Coratina)



原産国：イタリア
 用途：オイル
 葉の特徴：楕円形で中ぐらの長さ。披針形。
 実の特徴：比較的大きく、卵型。わずかに左右非対称で丸みを帯びている。

フランドイオ (Frantoio)



原産国：イタリア
 用途：オイル
 葉の特徴：楕円形で中ぐらの長さ。披針形。
 実の特徴：中ぐらの大ききで卵型。わずかに左右非対称で丸みを帯びている。

⑥ホジブランコ 収穫時

▼収穫約1~2ヵ月前



ホジブランコ
H27.10.19
2.2~3.0g

⑩コラティナ 収穫時

▼収穫約1~2ヵ月前



コラティナ
H27.10.19
2.4~6.0g

①フランドイオ 収穫時

▼収穫約1~2ヵ月前



フランドイオ
H27.10.14
2.6~4.6g

※ナショナルブランド コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

シリーズ 女性樹木医 奮闘③

樹木に教えられることを大切に

日本樹木医会 広報部会員 安達 菜菜



「最初の一步」

学生時代は、インテリアを学んでいました。課題に取り組むうちに、自分の興味が建物の「中」ではなく「外」に向いていることに気づき、ランドスケープの設計事務所でアルバイトを始めました。

入所した当時、ちょうど長野冬季オリンピックの選手村の建築とランドスケープ設計が進められており、7棟の建物それぞれを別の建築家が設計していました。建物間の空間をつなげる役割を担う植物を建築家の方々に知ってもらおう参考資料として、長野県で生育可能な樹木リストの作成を任せられ、大きさ、常緑・落葉、陽樹・陰樹、花色や開花時期、実の特徴といった特性をリストにまとめました。

植物について学んだ経験はほとんどなく、これが、私の植物に関わる仕事の最初の一步でした。事務所に並ぶたくさんの図鑑を一冊ずつ見比べながらリストを作る作業は時間がかかりましたが、知ることの楽しさにあふれていました。

その後、植栽計画を多く任せられるようになり、場所ごとの自然植生や環境を考えながら、四季折々の花や実、紅葉を楽しめる空間を思い描き、コストや管理を含めて植栽を計画し、現場監理も携わりました。簡単ではないことも多くありましたが、楽しく、充実した時間でした。当時、樹木医という資格の存在は知っていましたが、まさか自分が後に受験することになるとは、思いもよりませんでした。

「樹木医受験のきっかけ」

出産を機に退職しましたが、子どもが小さいうちに、もう少し樹木について学びたいと思うようになりました。そこで、子どもを一時保育に預け、週末に開催されていた東京農業大学のオープンカレッジ講座を受講することにしました。

最初は気軽な気持ちで始めました。堀大才先生の講座で、樹木の構造や生理、移植について学ぶうちに、「なるほど、そうだったのか！」と腑に落ちることや、設計時代に良いと思っていたことが、実は間違っていたと気づく場面もありました。これはきちんと学ばなければ、という思いが次第に強くなっていきました。

先生や樹木医の先輩方から「まずは受けてみなさい」と背中を押され、家族の後押しもあり、難しそうだけれど、チャレンジだけでもしてみようという気持ちで樹木医試験を受験しました。

「樹木医になって」

樹木医試験の受験者は全国から集まり、合格者は年間およそ100名ほどです。第二次審査では、筑波の研修所で丸2週間、毎日顔を合わせ共に学ぶため、合格後は同期がかけがえのない仲間になります。(現在、第二次審査は動画配信と実習6日間および資格審査に変わりました。)

10年以上経った今でも、同期で勉強会や食事会を重ね、助け合い、相談できる大切な存在です。また、樹木医会や各県支部ごとに、年間を通してさまざまな研修会が開催されます。

新米の頃から、先輩樹木医の診断業務のお手伝いやNPOの勉強会や資料づくり、支部役員、日本樹木医会の広報部会などに関わらせていただく中で、

人とのつながりが広がっていきました。そのご縁から、国指定天然記念物や名木の調査、社寺の樹木調査、学校敷地や事業計画地の樹木調査、街路樹診断など、さまざまな仕事を体験する機会に恵まれました。

「診断以外にも、知るべきことは尽きず」

樹木医になって14年目になります。個人事業主として忙しく仕事をさせていた一方で、樹木診断に関わる分野はとて幅広く、未解明なことも多くあります。それ以前に、自分自身の知見がまだまだ足りないと感じる場面も少なくありません。

頭で理解しているつもりでも、実際に見て、触れて、体感して初めて気づくことは多くあります。樹木が生産される過程や、どのように管理されているのかを知りたいという思いから、2019年から数年間、生産者さんのもとで、春の桜の接木シーズンに作業をお手伝いさせていただきました。1日に数百本をつくる、苗づくりの要となる接木作業。プロの作業を間近で見せていただきながら、継ぎ穂の準備や乾燥防止のロウ付け、接木テープの巻き付けなどを手伝い、あげ継ぎや野継ぎ(居継ぎ)などの工程も経験させていただきました。

また、樹木医仲間でもある植木屋の親方たちに植木管理の現場に呼んでいただくこともあり、生産や管理の実際の作業を通して、樹木の特徴をより深く学ぶ貴重な機会となっています。

これからも迷い、悩みながらではありますが、樹木に教えられることを大切に、樹木医として歩み続けていきたいと思っています。



接木作業後の畑 4月



芽が順調に伸び始めている 5月



枝葉が伸長中 6月



出荷前の1年苗 1月

日本列島植木植物園 ナショナルプラント コレクション*

ミッション (Mission)



原産国：アメリカ合衆国
用途：オイル、ピクルス
葉の特徴：楕円形で中ぐらいの長さ。披針形。
実の特徴：中ぐらいの大きさで卵型。わずかに左右非対称で先端が尖っている。

アルベキナ (Arbequina)



原産国：スペイン
用途：オイル
葉の特徴：楕円形で短い。
実の特徴：球状で小さい。左右対称的で丸みを帯びている。

ピクアル (Picual)



原産国：スペイン
用途：オイル
葉の特徴：楕円形で中ぐらいの長さ。披針形。
実の特徴：少し大きな卵型で左右非対称。丸みを帯びている。

⑮ ミッション 収穫時



⑤ アルベキナ 収穫時



④ ピクアル 収穫時



植物の多様性と人間生活(新連載)

第1回 種子の多様な形態と機能

東海大学名誉教授 長野克也



◆プロフィール
東海大学名誉教授(農学博士)。これまで、ヒノキ科樹木の細胞遺伝学的研究、地域生物資源の有効活用に関する研究および東南アジアの有効資源探査を実施。特に生垣の多面的な機能の研究やその普及に関して社会貢献賞を受賞。植物種子の遺伝子拡散について多くの知見を持ち、国内外の種子標本約3000種を保有。

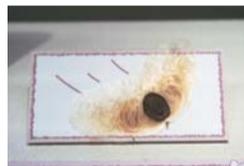
植物を栽培していない人にとって種子を見る機会は果物を食べる時くらいだと思います。しかも、邪魔者扱いされゴミとなってしまいます。しかし、種子たちをよく観察するとそれぞれ大きさや形態に違いがあることに気づきます。そもそも種子の役目は子孫を残すことですが、それだけならこんなに多種多様なものをつくる必要はありません。他に重要な役割があるはず。植物は動けませんので、分布を広げたくても環境が悪化しても移動する手段がないので種子を使って移動するのです。これらの種子散布の目的は遺伝子を拡散し、分布を広げ種の生存確率を高めることなのです。

●「風散布」

風や空気の抵抗を利用した種子散布方式でタンポポなどキク科に多いパラシュートタイプ、カエデやフタバガキ(写真1)などのプロペラタイプなどがあります。珍しいものでは空をグライダーのように何キロも滑空するアルソミトラ(写真2)など不思議な形態の種子が多く含まれます。



1. フタバガキの仲間



2. アルソミトラ



3. フタゴヤシ

●「水散布」

雨水、河川、海など水の流れによって散布される種子で海を旅するヤシの実も歌にも歌われるほど有名です。ヤシの仲間は長時間海を旅するため種子は大きく、その中でもフタゴヤシ(写真3)は植物界最大の種子として有名です。そのほかマングローブを形成する植物や海浜植物も海流を利用しています。スイレンなどの水生植物やタツナミソウなども知られています。モダマ(写真4)はマメ科植物では珍しい海を渡る種子として知られており、藻に絡んで海岸に打ち上げられることからモダマ(藻玉)と呼ばれます。



4. モダマ

●「自力散布・重力散布」

果実の乾燥などによって、種子がはじけ飛ぶことによる散布形態の植物です。手で触れると強く種子が飛び出すことから子供たちが喜んで遊びます。庭や道路などにも普通にみられるものが多く、ホウセンカ、カタバミ、フウロソウなどが知られています。また、ツリフネソウ(写真5)は果実を手で触れると瞬時に種子が勢いよく飛び出すことから学名の *Impatiens* は「こらえきれないもの」や「我慢できない」に由来しています。重力散布の代表的な種子はドングリコロコロのドングリの仲間で、種子や果実が成熟後落下し斜面などを転がることで移動します。



5. ツリフネソウ

●「動物散布」

地球の生態系において動物と植物は極めて密接な関係にあります。植物の授精から成長そして種子の拡散において動物はなくてはならない存在であり、もちろん動物にとっても植物無しでは生存は不可能です。その、究極の関係の一つが動物散布です。動物散布は植物と動物の共進化から生まれた極めて複雑で巧妙な関係を示すものです。動物散布は大きく3つのタイプに分けることができます。

(付着散布)

草むらをはいた後、オナモミやセンダングサ(写真6)の種子が服に付いて困った経験は子供のころの思い出として残っています。これらの種子のトゲや粘着物質が動物の体毛に付着することによって散布される仕組みです。オオバコ(写真7)の種子は濡れると粘着性の液を分泌し動物の足の裏に付着し遠くに運ばれます。したがって、オオバコは踏まれることが生存戦略です。また、人類が文明を持ち広範囲な移動をするようになると人間の足の裏や自動車のタイヤに付着したオオバコの種子は世界中を飛び回り、この地味な道端で踏まれ続ける植物の繁栄に人間が一役買うこととなりました。



6. コセンダングサ



7. セイヨウオオバコ

(貯食散布)

リスや鳥などが種子を貯蔵、食べ残し、忘れることによって散布される仕組みです。ドングリは重力散布と貯食散布の併用型ですが、散布型は複数のタイプを併用することも多いといわれています。また、アリの貯食を利用したエライオソームは多くの植物の種子に存在し、栄養豊かな物質でアリにより巣に運ばれ食料となり種子本体は廃棄され散布されます。



8. 野生のバナナ

(被食散布)

植物は美味しい果実を我々にもたらし、人間が食べるのに邪魔な種子を着けないような品種改良やホルモン処理で種子を失くしたバナナ、カキ、スイカ、ブドウなどを除けば熟した果実には必ず種子が入っています(写真8)。美味しい果実のご褒美を動物に与える被食散布は、偶然の要素が強いその他の散布方式に比べ極めて効率の良い方法です。被食散布は動物の方から積極的に種子散布を行ってくれることから種子をたくさん作る必要がありません。しかも、動物が糞と共に種子を散布してくれます。植物も未熟の種子を食べられては困るので、種子が未熟な段階では果実を酸っぱくしたり苦くしたり、また、果実の色も目立たない緑色です。種子が熟すと果実は赤くなり甘く美味しく強い香りを放つようになり、散布の準備が整ったことを動物に知らせるのです。もちろん、動物も生存のためにこの果実を食料として利用します。



9. バンクシア

●「特殊な散布」

植物にとっての生存の危機を利用した種子散布を行うバンクシア(写真9)はオーストラリアに分布し、山火事の高温を利用します。オーストラリアの乾燥地帯では定期的に山火事が自然発生します。バンクシアは進化の過程で山火事の高温に耐えるばかりでなく、高温が種子散布の引き金になり、その周辺の植物が燃え尽きた直後に芽を出し成長するという生存戦略を獲得しました。ハス(写真10)は時間を旅する種子をつくり、数千年の休眠の後、現代に花を咲かせたオオガハスは有名です。



10. ハス

これから、果物を食べる時にこれまでより少しだけ種子を眺めてください。大きい種子、形が奇妙なものなど多様なものがあることに気が付くことでしょう。アボカドの大きな種子はどんな動物が散布するのだろうか?などと考えると面白いですね。



緑育出前授業 累計 216 回

令和7年度 緑育出前授業実施 16 回

参加者 1,293 名 平成 21 年度からの累計 18,565 名

ご支援ご協力ありがとうございました。引き続きよろしくお祈いします

大分県支部
杵築市立豊洋小学校
2024/12/7



奈多海岸において抵抗性クロマツ苗木の植栽指導。海岸林の重要性(防災・塩害対策など)や、クロマツについて(菌根菌・マツノザイセンチュウ病など)の説明も実施。

大阪府支部 大阪教育大学附属幼稚園
2025/2/17



幼稚園からの感想:木がどのように育つか、どんな役割か、剪定の大切さ等を説明していただきました。質問タイムは大変盛り上がり、3本(さくら1本、果樹2本)の植樹も実施。園庭の木の小枝を使った「手作り小枝ペン作り」は、再利用を通して、持続可能な価値を学びました。

みどりとふれあうフェスティバル 2025 高尾 599 ミュージアム (八王子市)
2025/5/10,11



協会事業として、緑育、緑の普及、協会のピーアール、植木の購買に繋げる、将来の植木業界の向上を目指すことを目的とし、こけ玉のワークショップを実施。365日の誕生日の木の紹介のパネルを展示し、こけ玉の苗木はイロハモミジ、フェイジョア、ゲッケイジュ、シマトネリコ、ブルーベリーを使用した。

静岡県支部 株伸松園の圃場開放 2025/5/11



身近な植木はどこから来るか?を教材を使用して実施。植木を掘ってみよう!(圃場に植えてあるドウダングツツジ(H=0.4m)の掘り取りと植え付けの体験)また、木登り、かくれんぼ、ドングリや葉を使用した工作等で2時間使用。学童の教員から再度の実施の要望があった。

神奈川県支部 鎌田園芸の圃場開放
2025/6/7



圃場を散策しながら緑の大切さを説明。植木の繁殖の方法などの講義も実施。その後、ルーツポーチ(不織布ポット)に各自好きなものを描き、オリーブの植え付け体験を実施。感想:子どもたちは、植物の繁殖方法(実生や挿し木)が予想外の方法だったようで、驚いていた。

愛知県支部 為当ふるさとの森愛護会 2025/7/13



アジサイの挿し木体験・ヤマブキの植栽体験・アジサイの剪定体験・境内の植物名の紹介など、植物とふれあう体験を実施。小学生から高齢者まで参加してくれた。

静岡県支部 気賀放課後児童会、気賀第2放課後児童会 2025/7/30



浜松市立気賀小学校校内にて実施。「植木の高さを計ってみよう!」植木のクイズは、学校に植栽されている樹木の苗木を持参し、どの苗木が学校にある樹木と同じなのかをクイズ形式で当ててもらい、苗木と大きくなった樹木を比較し、樹形や葉の大きさの違い等を観察してもらった。

愛知県支部
豊田市立若林西小学校
2025/9/13



学校内に植樹してある17本の樹木に対して事前に予備知識を付けてもらったうえで、樹木の話をした。当日、暑さ対策のため室内での授業となった。枝葉を採取しての講義となったが、児童たちは熱心に聞いてくれた。

神奈川県支部
横浜市立すみれが丘小学校
2025/9/25



創立50周年の記念植樹(モクレン)と校庭周囲等の樹名板作成のための12種類の樹木の説明。感想:クスノキやユズ等の匂いをかいでもらうと、今まで匂いをかいだ経験がなかったようで、皆、興味津々で盛り上がった。記念樹では植える穴を掘ってもらおうようお願いしたら、大勢の子が拳手してくれた。

三重県支部
西尾市立福地北部小学校
2025/10/7



植木、植物に関するクイズを用意し、体育館の中でグループに分かれて回答してもらった。また、植木は猛暑の地球温暖化対策に大切な役割を果たしていることを、緑育の児童向けパンフレットを解説しながら説明した。感想:先生から大変良かったと嬉しい声をいただいた。

愛知県支部
大府市立大東小学校 2025/10/9
大府市立神田小学校 2025/10/10



令和8年度の愛知県植樹祭が大府市で開催されるにともない、児童に植樹祭セレモニーで配布される苗木の挿し木の体験をしてもらい、植樹祭まで育成してもらった。自分達で挿し木した苗木が配布され、新たな地で根を張り緑化が広がっていくことを体験してもらった。実際には、ムクゲの挿し木を500本、9cmポットに鹿沼土を培土として挿し、各自穂木取りから土入れ挿し木まで10本程の体験を実施。

福岡県支部
小郡市立立石小学校
2025/10/22



5年生の総合学習の時間で、植物や植木販売について、実施前に3時間分の事前学習もしてもらい、協会ホームページや資料をもとに子ども達が取材活動し学んだうえで、緑育を実施した。圃場見学では、質疑応答で積極的な質問がでた。木への漢字パズルは好評だった(天候の理由で作業体験ができなかった)。

田中常緑園さんの見学を終えて

田中さんへ
この前の見学ありがとうございました。植木の種類や育つ時間など、いろいろ分かりました。植木を育てることの大変さを知りました。最後の「木」がつく漢字パズルも楽しかったです。この見学で植木のことを前よりよく知ることができました。枝を土に植えると、そこから根が出てくることにとてもビックリしました。『きになる漢字』プリントありがとうございました。木がつく漢字に楽しくなりました。見学をさせていただきありがとうございました。

日比谷公園ガーデニングショー 2025/10/25,26



寄せ植え体験を実施。アドバイスをしながら、育て方、緑の大切さ、協会のPRを行った。寄せ植え(クロマツ、イロハモミジ、コウヨウゼン、タマリユウ、ハイゴケ)、鉢20種類程度を用意し、「365日の誕生日の木」を大勢の方に紹介し、木の特徴などを伝えて、樹木に興味を湧くよう、身近に感じてもらうよう努めた。

鹿児島県支部 出水市立西出水小学校 2025/10/29

「この木なんの木」というクイズや、野外レクリエーションクイズゲームをしながら、校庭にある樹木について興味をもってもらった。また、植木のお仕事紹介、質問コーナー、道具の紹介も実施。感想:児童に予想以上に植物や植木屋にも興味を持ってもらった。また、自分たちの仕事を紹介することで、自分たちの学びにもなった。



東京都支部 港区立南山幼稚園 2025/11/11

4歳児と5歳児は室内にて緑育動画を視聴、質疑応答を保護者を交えて実施し、同時に園庭にて、3歳児と保護者に、イロハモミジとハナミズキの苗木で緑育体験キットで植栽を行った。その後、園庭にて4歳児と5歳児にも緑育体験キットで植栽を行った。対象年齢が低いため、質疑応答の内容が難しかった。

